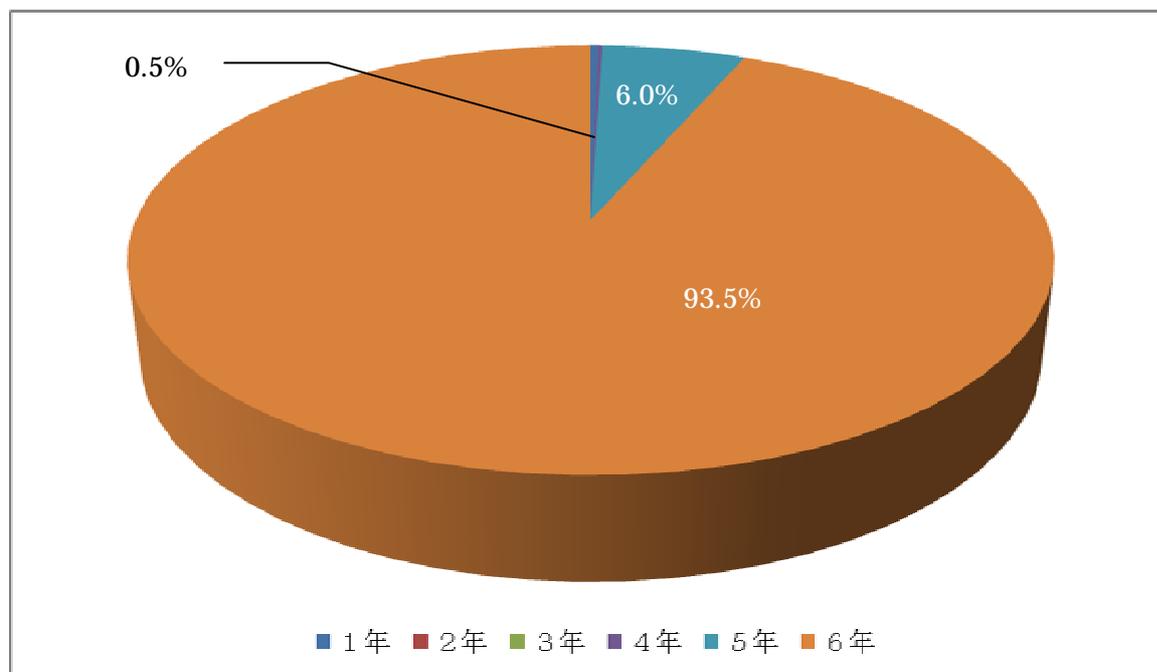


5. アンケート結果分析

5.1 小学生対象アンケート

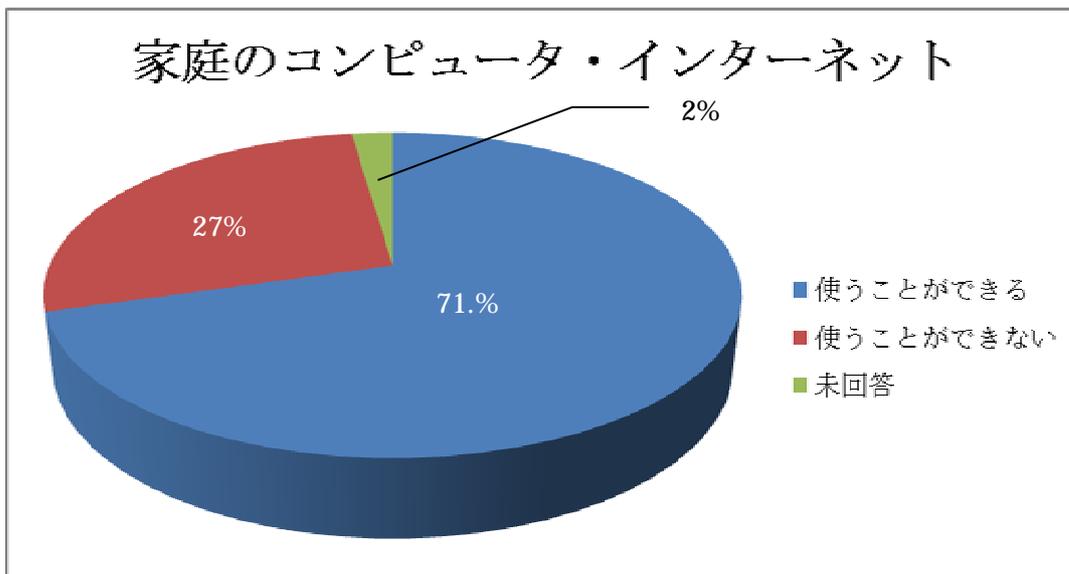
対象としては6年生が約94%、5年生が約6%であった。小学校高学年のアンケートとして捉えることとする。男女比はほぼ半々であった。



(1) パソコン、インターネットの利用について

71.0%が家庭でコンピュータやインターネットを使うことができると回答している。

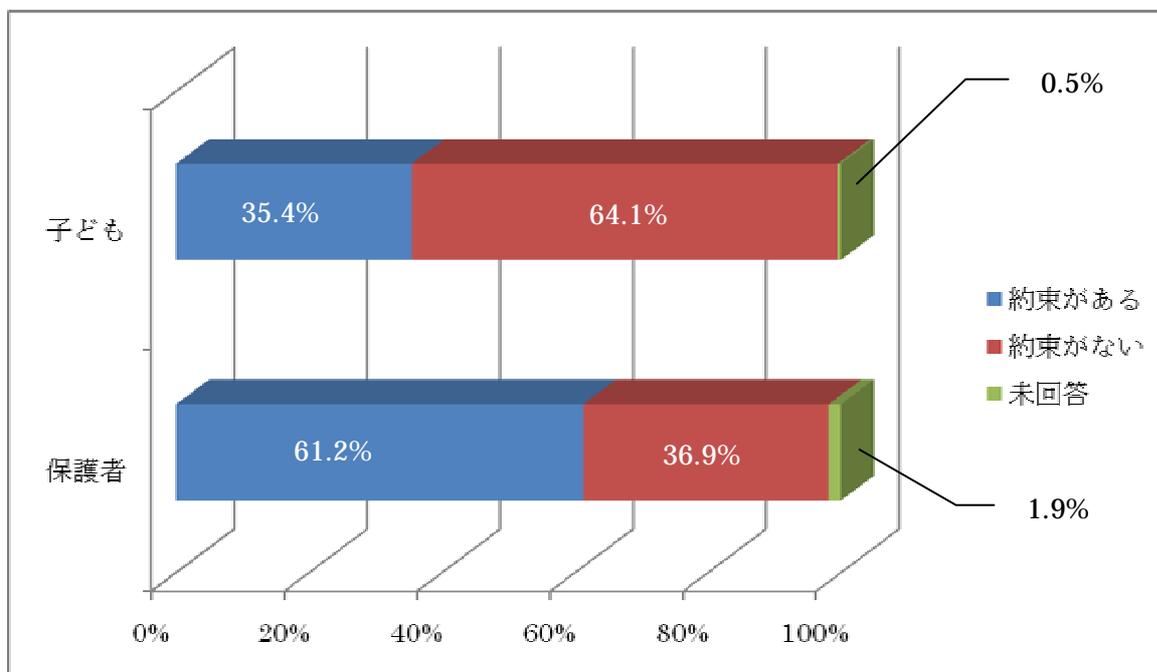
既知用語に関する質問のうち、コンピュータやインターネットの使用に関して「ブログ(86.5%)」「ネットゲーム(74.1%)」が特に高率であり、コンピュータやインターネットが使える環境にある児童はサイト閲覧等を中心として実際に家庭でインターネットを使用していることが推察できる。

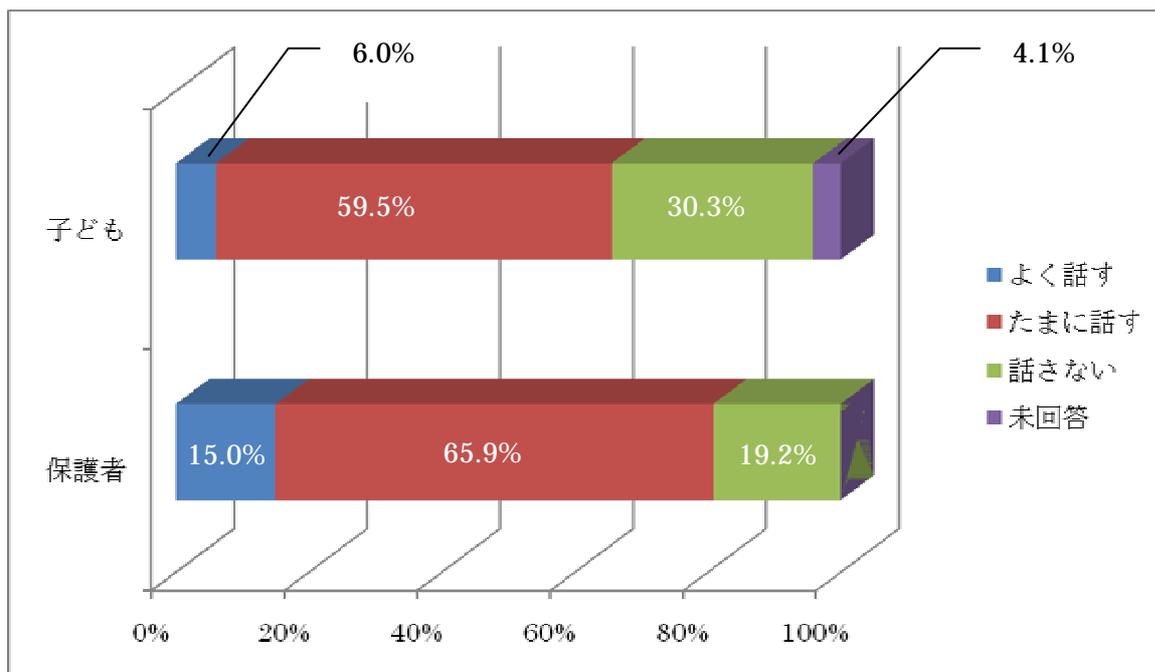


(2) インターネット利用時の約束について

家庭でインターネットを使う際に約束を決めているとする児童は35.4%。半数以上が約束を決めていないと認識している。他方、小学生の保護者に対するアンケートでは、61.2%が約束を決めていると回答されており、「親が約束したつもりでも、子どもは約束がないと認識している」層が少なからずいること（今回の数字では約半数の家庭）が推察される。

同様に、インターネットの使用に関して家庭で親子の話し合いがあるかどうかについて、81%の保護者が話していると認識しているのに対し、児童は65%に留まっており認識に乖離がある。話し合いがないとした35%の児童は、親との相談なしに勝手にインターネットを使っている状態にあると考えられる。





(3) 携帯電話の使用について

今回の対象者の中で、携帯電話の所持は、156 / 617で25.3%であった。携帯電話を持ち始めた学年としては4年生までが0人、5年生で12人、6年生143人、未回答1人であった。回答者のほとんどが6年生であったが、6年生の2学期頃までに4人に1人程度が所持しているという結果となった。ただし、保護者の回答では27%が持たせており、持ち始めた学年は小学校1年が8%、2年が6%、3年が8%、4年が18%、5年が13%、6年が5%という回答があり児童の結果とは異なる回答が得られたが、5～6年生という回答者の群において所持率が25%程度という傾向には一致が見られた。

主な用途として、自由記述から拾うと、

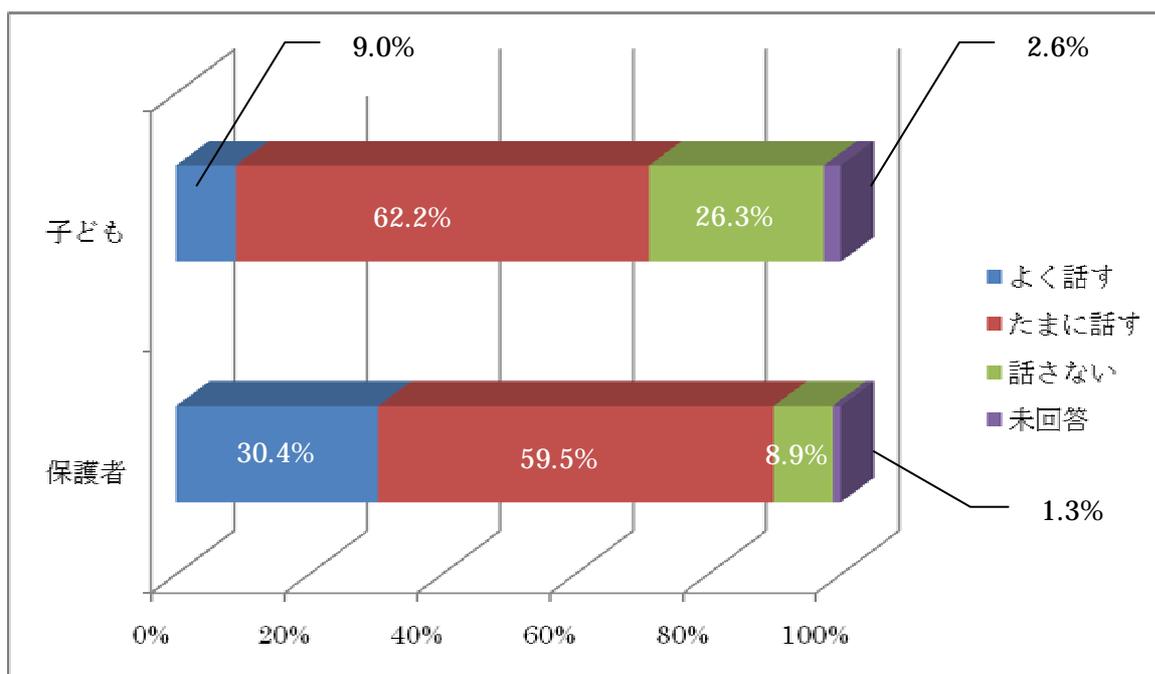
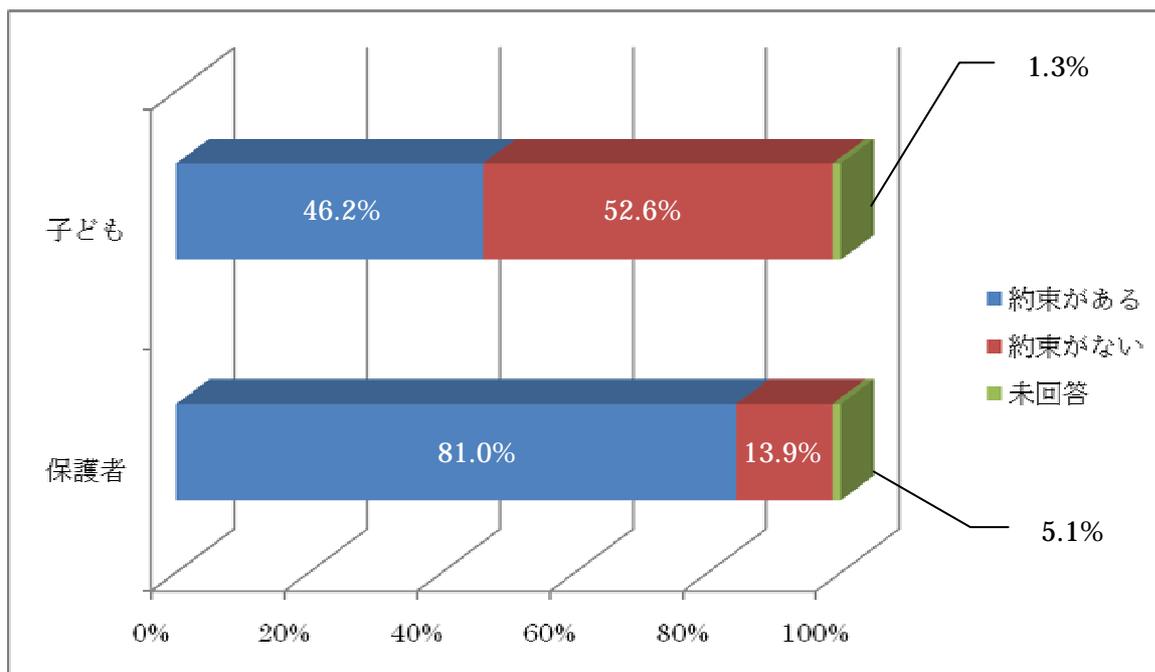
- ・塾や習い事の際、または緊急時の家族との連絡手段（通話・メール）
- ・友人との連絡（通話・メール）
- ・カメラ
- ・動画や音楽の視聴
- ・電卓
- ・ゲーム
- ・Webを見る
- ・辞典

などである。

(4) 携帯電話利用時の約束について

家庭で携帯電話を使う際に約束を決めているとする児童は46.2%。インターネットの場合よりもやや高率であるが、所持者の半数以上が約束を決めていないと認識している。他方、小学生の保護者に対するアンケートでは、81.0%が約束を決めていると回答されており、やはり「親が約束したつもりでも、子どもは約束がないと認識している」層が少なからずいること(インターネットと同様に半数程度 of 家庭)が推察される。

また、携帯電話の使用に関して家庭で親子の話し合いがあるかどうかについて、90%の保護者が話していると認識しているのに対し、児童は71%に留まり、約3割が「野放し」状態に相当すると思われる。



(5) ネット・メディア使用傾向

用語に関する認知度、いやな思いをした体験などから、インターネット、携帯電話の利用に関する傾向を読み解くと、下記のようなになる。

「ブログ」は男女とも約9割が認知、「プロフ」は男子の3割・女子の6割が認知しており、コミュニケーションツールとしてのインターネットの姿についてはかなり把握されている。また、「2ちゃんねる」を知っていると答えた児童が約1/3に上ることに注意を払う必要がある。「2ちゃんねる」はインターネットの負の側面を代表する言葉でもあり、その存在について(おそらく学校で教わることはないのに)知っていると言うことは、インターネット使用の過程で、あるいは友人知人からの情報として知るにいたる機会があったということの意味する。

一方で、「フィルタリング」についての認知は1~2割に留まる。保護者では7割が認知している言葉であり、小学生の認知度が低いことは、インターネットの危険から自ら身を守るための知識に乏しいことが示唆される。

「出会い系サイト」「掲示板サイト」「ネットゲーム」「学校裏サイト」は、若年層ではコンピュータからのアクセスよりは、携帯電話からのアクセスの比率が高いものに該当するが、小学校高学年の半数以上が認知している。携帯電話を所持しているか否かにかかわらず、情報モラル教育や生活指導等を通じた情報安全に関わる知識として見聞していると思われるが、「フィルタリング」の認知が低いこととあわせて考えると、『「出会い系サイト」などの用語が意味するものが危ない、怪しいということは知っているが、具体的にどのように身を守るかの知識は備えていない』という状況が考えられる。

携帯電話やインターネットでいやな思いをした者は、35名、6%であった。内容は、チャットで暴言を言われた、掲示板で悪口を言われた、迷惑メールが来た、動画を見たらウィルスに感染した、などであった。ほとんどが比較的軽度の部類に属すると思われ、実体験として危険に遭遇する比率は多くないと考えられるものの、深刻な事態に繋がりがねない危うさをはらんでいることに留意する必要がある。同じ質問で保護者の回答は、22%が「ある」と答え、チェーンメール、悪口メール、架空請求などの迷惑メール類が多いが、中には、ストーカーにあった、なりすましで悪口の犯人にされかけた、同級生からHさせるのメールが来た(小6男子)という、やや心配な事例もみられた。

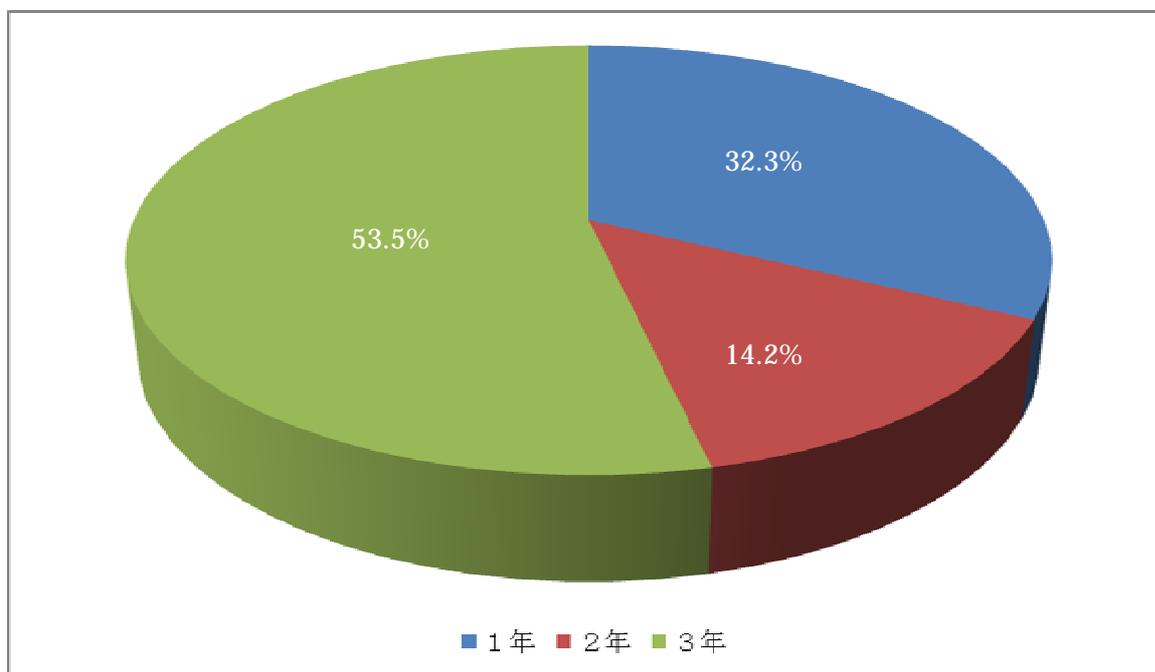
(6) セミナーについて

小学生、保護者とも、セミナーについては好印象であり、特に子どもたちは9割近くが楽しく、8割が役立つものと回答し好評であった。保護者からも、75%が良いと答え、否定的評価は僅少で、自由記述においても、このようなセミナーの機会の重要性についての認識がうかがわれた。

また、テキスト冊子について、小学生にわかりやすさを聞いたところ、80%がちょうどよいとの回答であり、好評であった。

5.2 中学生対象アンケート

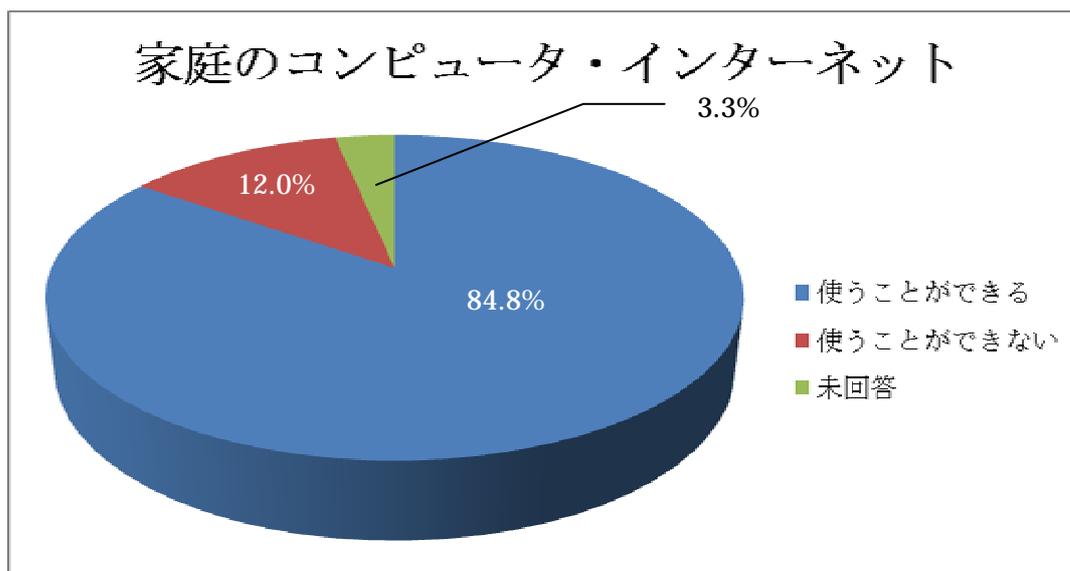
対象としては中学校3年生が54%、2年生が14%、1年生が32%であった。



(1) パソコン、インターネットの利用について

84.8%が家庭でコンピュータやインターネットを使うことができると回答している。

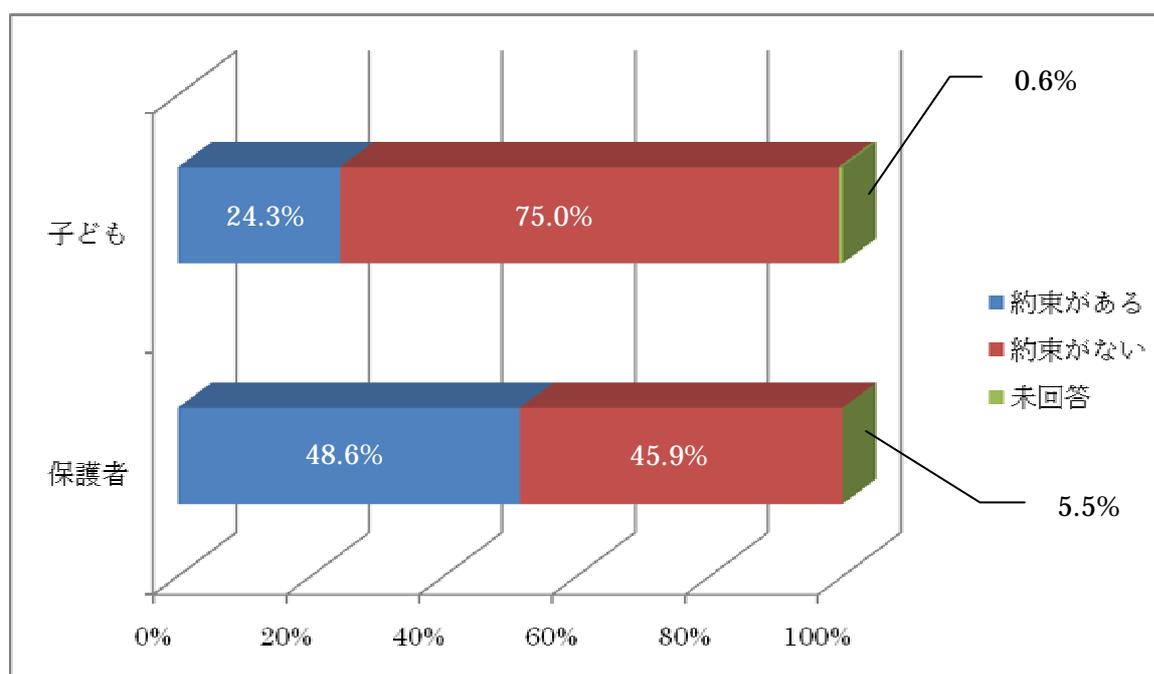
既知用語に関する質問のうち、コンピュータやインターネットの使用に関して「ブログ(93.8%)」が特に高率であり、実際に家庭でブログの作成や閲覧などにインターネットを使用していると推測される。

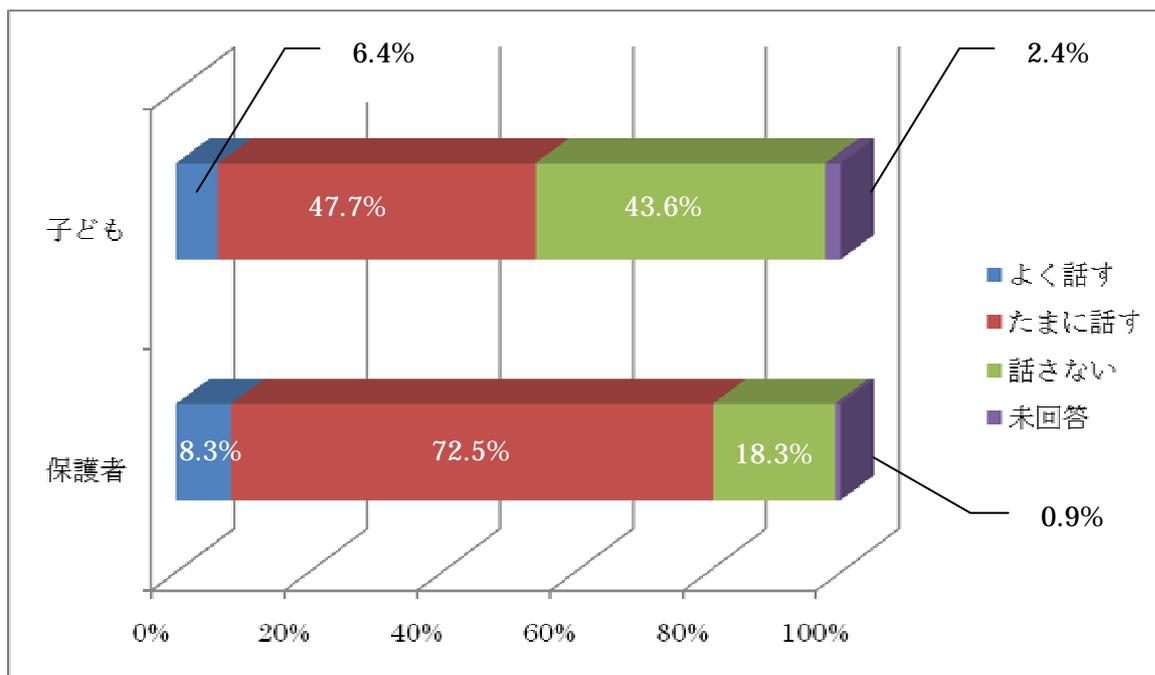


(2) インターネット利用時の約束について

家庭でインターネットを使う際に約束を決めているとする生徒は24.3%。3/4が約束を決めていないと認識しており、小学生の場合よりも高率である。他方、中学生の保護者に対するアンケートでは、48.6%が約束を決めていると回答されており、「親が約束したつもりでも、子どもは約束がないと認識している」層は、小学生と同様に約半数にのぼるようである。

同様に、インターネットの使用に関して家庭で親子の話し合いがあるかどうかについて、81%の保護者が話していると認識しているのに対し、生徒は54%に留まっており、小学生の場合よりも差が開く結果になっている。子どもの4割強が、インターネット使用について親との話し合いがないとの回答であり、何らかの対応が親側に求められることが示唆される。





(3) 携帯電話の使用について

今回の対象者の中で、携帯電話の所持は、350 / 945で36.0%であった。持ち始めた時期で、最も多いのは中学校1年生の112人、次いで小学校6年生の60人、5年生39人、中学2年生30人、小学校3年生27人、4年生24人、中学校3年生23人、1年生9人、2年生5人、未回答11人であった。所持者の約3割が中学校入学を機会に購入している。小学校中学年までに2割、小学校高学年で3割、中学校入学時に3割、そして中学校2年次に1割というのが携帯電話を持ち始める年代のようである。

中学生の主な用途として、自由記述から拾うと、

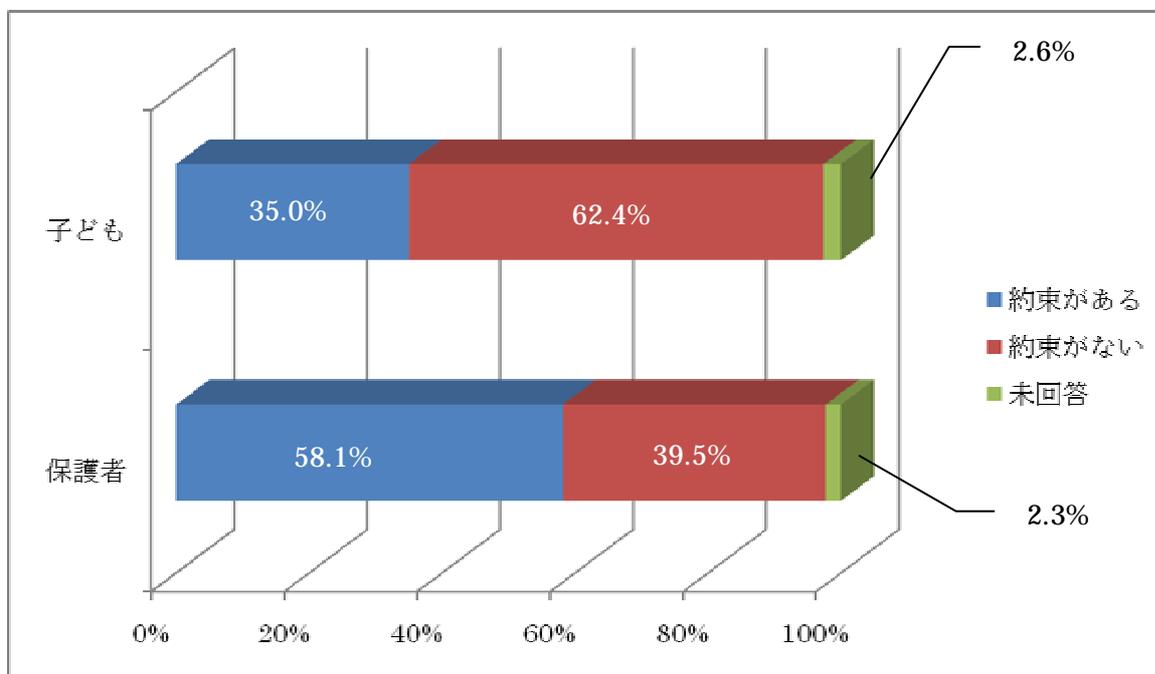
- ・塾や習い事の際の家族との連絡手段（通話・メール）
- ・友人との連絡（通話・メール）、SNS
- ・音楽を聴く
- ・インターネットを見る
- ・ゲーム
- ・テレビ
- ・写真撮影、電卓、スケジュール、アラーム

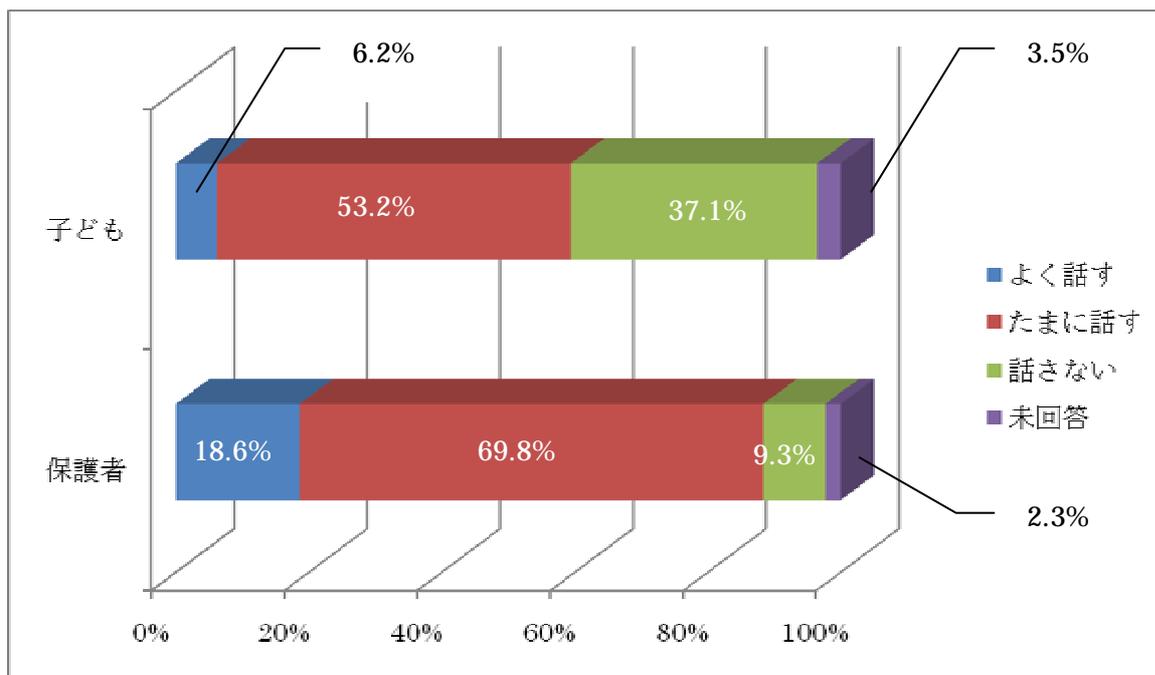
などであり、インターネットのコンテンツ視聴や、天気予報などのサービスなど、高機能化した携帯電話を使いこなしていることがうかがわれた。記述自体ではほぼ小学生と傾向は似ているが、交際範囲は他校の友人や一般社会人にまで広がる例も回答があり、家族に限定される傾向がある小学生とは異なり、友人等との自由な通信に比重が移ってきていることが推測される。なお、レアケースであるが出会い系サイト（中3女子）という回答もあった。

(4) 携帯電話利用時の約束について

家庭で携帯電話を使う際に約束を決めているとする中学生は35.0%。インターネットの場合よりも高率であるが、やはり約6割以上が約束を決めていないと認識している。他方、中学生の保護者に対するアンケートでは、58.1%が約束を決めていると回答されており、やはり「親が約束したつもりでも、子どもは約束がないと認識している」層が少なからずいること(インターネットと同様に約半数の家庭)が推察される。

また、携帯電話の使用に関して家庭で親子の話し合いがあるかどうかについて、話していると認識している保護者は88%であったのに対し、中学生の回答は59%に留まり、小学生の場合と同様の傾向がみられた。中学生の子どもと保護者との間では、クラブ活動などのために家族で過ごす時間は少なくなることはあるにしても、親からは積極的にコミュニケーションをとろうと働きかけていることが推察されるが、3割程度が子どもの受け止め方と乖離しているようである。また、中学生で約4割が携帯電話の約束ごとについて親と話したことがないとの回答で「野放し」状態に相当すると考えられる。





(5) ネット・メディア使用傾向

用語に関する認知度、いやな思いをした体験などから、中学生のインターネット、携帯電話の利用に関する傾向を読み解くと、下記ようになる。

「ブログ」は男女とも9割以上の認知、「プロフ」は男子が6割、女子で9割が認知しており、コミュニケーションツールとしてのインターネットの姿について、やはりかなり把握されているようである。また、「2ちゃんねる」を知っていると答えたのは5割（小学生では3割強であった）に上った。使用経験年数が増加するにつれて、インターネットの負の側面についても知るようになるということである。

一方で、「フィルタリング」についての認知は6割に留まる。新たに制定された青少年ネット環境整備法や携帯電話キャリア等の取り組みにより増えてきているようであるが、4割が知らないことはやはり課題であるといえよう。小学生の場合と同様、インターネットの危険から自ら身を守るための知識に乏しいことが示唆されている。

「出会い系サイト」「掲示板サイト」「ネットゲーム」「学校裏サイト」は、いずれも約8割の認知度であり、生徒間の情報交換から知識を得る機会も当然多いとおもわれるが、むしろ、中学1年次の技術科を中心に行われる情報教育、情報モラル教育や生徒指導等の成果であると考えられる。他方、「フィルタリング」や「プロトコル」などの、安全・セキュリティ対策を考える上で必要となる概念についての認知度は低いため、やはり、「危険らしいということはわかるが、具体的にどのように予防し、身を守るのかについての知識は乏しい」という状況にあると推察される。

携帯電話やインターネットでいやな思いをした者は、85名、9%であり、小学生よりも高率であった。内容は、迷惑メールや、チャット・掲示板での誹謗中傷などで、出会い系サイトからの勧誘メールなどが多いようであった。保護者の回答も同様であったが、ゲームサイトに勧誘され高額請求されたり、娘がケータイ依存になった、プロフに顔写真を公開されたなど、思春期の子どもを抱える保護者ならではの事例報告もあった。やや深刻と思われるものでは、架空請求、サービス料

の高額請求、ワンクリック詐欺、いじめ（書き込み、いじめサイト）の事例も報告された。

（６）セミナーについて

中学生、保護者とも、セミナーについては好印象であり、特に子どもたちは９割が楽しく、８割が役立つものと回答した。保護者からも、８割近くが良いと答え、否定的評価は僅少で、自由記述においても、このようなセミナーの機会の重要性についての認識がうかがわれた。

また、テキスト冊子について、中学生に対してわかりやすさを聞いたところ、８０％がちょうどよいとの回答であり、中学生に対しても好評であった。中学生、小学生それぞれに、自分たちのレベルに適した内容があり、満足であったとの評価が得られたようである。テキスト冊子はマンガやイラスト、キャッチコピーや事例解説などを組み合わせた体裁であるが、これらが、幅広い年齢層にそれぞれのレベルで受け入れられる内容であったと推察される。